

令和 8 年 2 月 18 日

大阪市総合教育センター
教育振興担当 実践研究グループ
首席指導主事様

研究コース	
B グループ研究B	
校園コード (代表者校園の市費コード)	
592241	
選定番号	B225

代表者	校園名:	夕陽丘中学校
	校園長名:	神田 敏生
	電 話:	06-6772-3331
	事務職員名:	帆谷 真己
申請者	校園名:	夕陽丘中学校中学校
	職名・名前:	校長・神田 敏生
	電 話:	06-6772-3331

令和7年度 「がんばる先生支援」 報告書

◇「がんばる先生支援」について、次のとおり報告します。

1	研究コース	コース名	B グループ研究B	研究年数	継続研究 (3年目)												
2	研究テーマ	<p align="center">多面的・多角的な視点で考え、議論する道徳教育の創造 ーグループワークを取り入れ言語力を育てる道徳科授業づくりー</p>															
3	研究目的	<ol style="list-style-type: none"> 生徒一人一人が人間としての生き方について、より深く考える「道徳の授業づくり」の展開について研究を推進するため。 多面的・多角的な考えができるよう発問の工夫および生徒と共に議論できる授業づくりを行う。また、学習指導案をもとに授業を実践し、グループワーク等により授業内容を深める。更には、授業実践記録及び生徒感想文を集約し、今後の研究における深化・充実を図るため。 この実践を大阪市の実践として、より多くの学校へと発信し、実践を進めることで、生徒たちの「心を耕す道徳の授業づくり」について取り組みを推進する。また、大阪市だけでなく、大阪府下や他府県等へ向けても発信していくため。 研究校・推進拠点校において、校区内の小学校とも連携し義務教育9年間で人間としてより良く生きようと考えられる生徒・児童を育てることに繋がる小中一貫教育の実践を推進するため。 特別支援学級で行う支援学級生徒対象の道徳授業の研究についても更なる研究を推進するため。 															
4	取り組んだ研究内容	<p>いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。(MSコシツク 9.5キント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和7年度 文部科学省「よりよい生き方を実践する力を育む道徳教育の推進事業」では、研究校(難波中)・推進拠点校(1B・淀中、2B・大淀中、3B・鶴見橋中、4B・矢田西中)で実施した。各校とも校内研修、公開授業・研究協議に取り組むことができた。また、今年度も5校の中学校区の各小学校とも小中合同研修会や相互参観を実施することができた。義務教育9年間で人間としてより良く生きようと考えられる生徒・児童を育てることに繋がる、小中一貫教育の実践に取り組めた。(別紙の冊子参照) 5校では、2年次の先生方を中心とした若手教員や経験豊富な先生方がそれぞれ工夫を凝らし、主体的で参加型の授業づくりを実践できた。また、5校だけではなく土曜学習会等の「授業づくり」に焦点化した研修会を通して、先生方の授業力向上に取り組めたため、生徒の生き生きとした発言・発表に繋がってはきている。 今年度も、一昨年度、昨年度に引き続き、授業を展開する上では、主人公の心のおきどころが大きく変容したところ(「気づき1」)を中心発問として捉え、生徒たちの「浅い気づき」を切り返すように努めた。また、主人公の生き方に大きく影響を与えた人物(「触発者」)の視点にも立ち、生徒に深く考えさせることに重点を置き取り組んだ。その際、ペアワークやグループワーク等を効果的に取り入れ、生徒たちの想像力を高めさせ「多面的・多角的」な捉えができるように心がけた。特にグループワークを行う時には、相互の意見を共有する授業づくりと仲間の意見を書き留めてまとめる等、多様な意見を通して「言語力を育てる」道徳授業の実践にも取り組めた。 再度、主人公に立ち戻り、生徒たちの心を揺さぶりながら、主人公の生き方について、更に深く考え(「気づき2」)、未来志向で「自我関与」させていく実践についても取り組めた。 今年度より、教科書が新しくなったため全教材ではないが、各教材の学習指導案集を作成し、全中学校に送付できた。 今年度、土曜学習会(年間5回)、大阪市道徳教育推進委員会(年3回)の研修会を開催することができた。また、道徳部の専門委員の先生方を中心に「道徳教育を深めたい方対象研修会」を年間6回開催し、研究校や推進拠点校で行われる校内研修や小中合同研修会の講師を担当したり、公開授業・研究協議会等において指導助言ができる人材育成にも取り組むことができた。更には、夏季休業中に実施した「道徳教育を深めたい方対象研修会」においては、昨年度に引き続き府下の先生方と合同で実施したため、大阪市立中学校教育研究会道徳部が取り組んでいる「授業づくり」について府下の先生方へも発信できたと同時に、府下の「授業づくり」についても学べる貴重な機会となった。 															
5	研究発表等の日程・場所・参加者数	<p>研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。</p> <table border="1"> <tr> <td>日程</td> <td>令和 7 年 10 月 8 日</td> <td>参加者数</td> <td>約 50 名</td> </tr> <tr> <td>場所</td> <td colspan="3">大阪市立難波中学校 2年3組教室・体育館</td> </tr> <tr> <td>備考</td> <td colspan="3">難波中学校区の2小学校の先生方も参加していた。</td> </tr> </table>				日程	令和 7 年 10 月 8 日	参加者数	約 50 名	場所	大阪市立難波中学校 2年3組教室・体育館			備考	難波中学校区の2小学校の先生方も参加していた。		
日程	令和 7 年 10 月 8 日	参加者数	約 50 名														
場所	大阪市立難波中学校 2年3組教室・体育館																
備考	難波中学校区の2小学校の先生方も参加していた。																

6	成果・課題	<p>大阪市教育振興基本計画に示されている、「子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成および「教員の資質や指導力」の向上について、申請書に記載した検証方法から得られた結果と、それらからの結果に基づいた考察を、具体的に記載してください。</p>
		<p>【見込まれる成果1】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成</p> <p><input type="checkbox"/> 「教員の資質や指導力」の向上</p> <p>・校内研修、小中合同研修会、公開授業・研究協議会を通して、道徳の授業により生徒たちが自分の生き方を見直したり、未来志向で物事を考えられる授業を行う。</p> <p>≪検証方法≫</p> <p>・研究校、推進拠点校（5校）で実施する生徒アンケートの「道徳の授業は楽しいですか。」の質問項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を80%以上にする。（昨年度：75.1%）</p>
		<p>[検証結果と考察]</p> <p>・令和7年度 文部科学省「よりよい生き方を実践する力を育む道徳教育の推進事業」5校において生徒アンケートを実施した結果、「道徳の授業は楽しいですか。」の項目では肯定的な回答をする生徒の割合は73.5%であり、昨年度と同程度であった。よって、目標の80%以上にはできなかった。（R6：75.1%）一方で「道徳の授業が楽しいとはまったく思わない。」生徒は6.4%で、これについても昨年度と同程度であった。（R6：5.2%）更に「先生や友達のことばかりから自分の考えを深めること」、「先生や友達の意見から新しい自分の考えが生まれること」が楽しい理由であると回答する生徒の割合がやや増加した。しかしながら「教材の内容を確認するだけだから」（26.2%）、「ワークシートへの記入が多くて考えや意見の発表時間がほとんどない」（15.1%）と回答する生徒の割合は昨年度同様に一定数見られる。更なる授業方法の深化・充実が必要である。</p>
		<p>【見込まれる成果2】</p> <p><input type="checkbox"/> 「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 「教員の資質や指導力」の向上</p> <p>・校内研修、小中合同研修会、公開授業・研究協議会を通して、道徳の授業により生徒たちが自分の生き方を見直したり、未来志向で物事を考えられるよう、発問の工夫に心掛けた授業を行う。</p> <p>≪検証方法≫</p> <p>・研究校、推進拠点校（5校）で実施する教員アンケートの「自身の道徳授業に対する知識・理解は深まりましたか。」の質問項目について、肯定的な回答をする教員の割合を現状維持する。（昨年度：87.1%）</p>
		<p>[検証結果と考察]</p> <p>・令和7年度 文部科学省「よりよい生き方を実践する力を育む道徳教育の推進事業」5校において教員アンケートを実施した結果「自身の道徳授業に対する知識・理解が深まりましたか。」の項目では、肯定的な回答をする教員の割合は91.7%であり、目標は達成できた。（R6：87.1%）教科化に伴い、教員の道徳授業を行うための授業準備や指導案の作成等、道徳授業への取り組みも少しずつ充実してきていると考えられる。一方で「感動、畏敬の念」・「国際理解、国際貢献」・「真理の探求、創造」等の随筆的な文章を扱う教材については、物語文を扱う教材よりも授業方法や取り扱いが難しいと感じている教員はこれまでと同様に多く見受けられる。大阪府立中学校教育研究会道徳部が発行している「授業づくりハンドブック」や「指導要点集」・「学習指導案集」を活用し教員一人ひとりが教材研究を深める必要があると共に道徳部では研修会等を行い情報発信に努める。</p>
<p>【見込まれる成果3】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成</p> <p><input type="checkbox"/> 「教員の資質や指導力」の向上</p> <p>・公開授業では、中心発問を更に深めるため、触発者の視点から「気づき1」を多面的・多角的に捉え直し、ペアワーク・グループワークを実践することで、想像力を高め、生徒自らが自分の考えを深められるような授業に取り組む。</p> <p>≪検証方法≫</p> <p>・研究校、推進拠点校（5校）で実施する生徒アンケートの「道徳授業の何が楽しいか、好きな理由は何か」の質問項目に対して、「生徒自らが自分の考えを深められる」ことに関する4項目を選び、回答する生徒の割合を50%以上にする。（昨年度：44.8%）</p>		
<p>[検証結果と考察]</p> <p>・令和7年度 文部科学省「よりよい生き方を実践する力を育む道徳教育の推進事業」5校において生徒アンケートを実施した結果、「生徒自らが自分の考えを深められる」ことに関する4項目を回答した生徒の割合は49.0%であり、目標の50%には達しはしなかったものの、昨年度よりは約4ポイント上昇し、目標は概ね達成できた。（R6：44.8%）引き続き、来年度以降も効果的なペアワークやグループワークの在り方等について、研究を推進して行く。また、道徳部で研究できたことを積極的に全市に向けて発信することで、生徒一人ひとりが想像力を高め、自分の考えを深められるような授業実践に取り組む必要がある。</p>		

6	成果・課題	<p>【見込まれる成果4】</p> <p><input type="checkbox"/> 「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 「教員の資質や指導力」の向上</p> <p>・指導者養成講座を開催し、各校に模擬授業及び校内研修や指導助言等ができるような指導者の育成に務める。</p> <p>≪検証方法≫</p> <p>・自主的な学習会において、指導者の養成を目的とした講習会を年間6回実施する。 (昨年度：8回・土曜日の開催となり、働き方改革の観点から実施回数を精選したため6回の実施とする。)</p>
		<p>[検証結果と考察]</p> <p>・「道徳教育を深めたい方対象研修会」を6回開催。この自主研修会の目的は、各校での道徳科授業の更なる充実・活性化に向け、校内での道徳研修会、研究校・推進拠点校等で講師として直接指導ができる実践的技量を育成することとしている。趣旨は、道徳科授業の効果的な授業展開と工夫についてを考えるとともに、道徳教育の目標に沿った教材の読みを深め、分かりやすい講義や解説ができる資質を訓練することである。</p> <p>・場所…港南中学校 2階視聴覚室 ・時間…13時～16時30分(3時間30分) ・参加人数…約20名 (研究校・推進拠点校の校内研修や小中合同研修会での講師、公開授業等での指導助言者の育成)</p>

6	研究全体を通じた成果と課題	<p>【研究全体を通じた成果と課題】 研究発表会等で使用した資料や研究冊子から引用し、端的に記述してください。</p>
		<p>1. 新規研究(1年目) ※継続研究2年目以降は1年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>・文部科学省「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」では、各校、道徳教育推進教師・道徳部事務局長等と連携し、道徳教育の充実を図ることができた。1学期に道徳部事務局長による校内研修を通して、教材の読み込みかたや授業展開等、多岐にわたり研修を行うことができた。各校での授業研究では、中教研道徳部の「授業づくりハンドブック」や「指導要点集」、「学習指導案集」を活用し、授業に挑戦されている先生の多くは、道徳教育への理解が深まっている。また、道徳教育を全市に発信する指導者の育成が課題であり、「道徳教育を深めたい方対象研修会」を年11回開催できた。約20名の先生方が自主的(土曜日)に集まり、研鑽を深め指導者としての力を培ってきた。今後も大阪市教育委員会、大阪市教育センターと連携し大阪市の道徳教育の深化充実を目指す。</p>
		<p>2. 継続研究(2年目) ※継続研究3年目の場合は、2年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>・文部科学省「よりよい生き方を実践する力を育む道徳教育の推進事業」では、各校道徳教育推進教師・道徳部事務局長等と連携し、道徳教育の充実を図れた。1学期に道徳部事務局長による校内研修を通して、教材の読み込み方やグループワークを取り入れた授業展開等、充実した研修を行った。各校での授業研究では中教研道徳部が作成した「授業づくりハンドブック」や「指導要点集」、「学習指導案集」を活用し、授業に挑戦されている先生の多くは道徳教育への理解が深まっている。また、道徳教育を全市に発信する指導者の育成が課題であり、「道徳教育を深めたい方対象研修会」を年8回開催し、約20名の先生方が自主的(土曜日)に集まり研鑽を深め指導者としての力を培ってきた。今後も大阪市教育委員会、大阪市総合教育センターと連携し大阪市の道徳教育の深化充実を目指す。</p>
		<p>3. 継続研究(3年目)</p> <p>・文部科学省の支援事業においては、各校の道徳教育推進教師と中教研道徳部の事務局長等とが密に連携できたことで、支援事業に取り組んだ15校では道徳教育の充実を図ることができた。特に、教材の読み込み方やグループワークを取り入れた授業展開等、授業づくりについての研修を行うことで、授業力の向上へと繋げることができた。</p> <p>・一方では、中教研道徳部が進めている研究を全市に発信する指導者の育成が喫緊の課題であり、「道徳教育を深めたい方対象研修会」を年6回開催し、約20名の先生方が自主的(土曜日)に集まり研鑽を深め指導者としての力を培ってきた。今後も大阪市教育委員会、大阪市総合教育センターと連携し、大阪市の道徳教育の深化充実を目指す。</p>
		<p>≪代表校園長の総評≫</p>
		<p>1. 新規研究(1年目) ※継続研究2年目以降は1年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>・令和5年度の文部科学省の支援事業を実施した5校において、生徒アンケートを実施した結果、「道徳の授業は楽しいですか。」の項目では、肯定的な回答をする生徒の割合は75.1%であった。今後「楽しい」と回答する生徒が増加するよう研修会等を通じて教員の資質・授業力向上に努めて行く。</p> <p>・小中合同研修会を8中学校区で実践できた。今後も9年間を見通した道徳教育の実践に取り組む。</p> <p>・令和6年度の「府中道大阪市大会」の開催に向け大阪府が取り組んでいる「道徳科の授業づくり」について大阪市教育委員会・大阪市教育センターとも連携し府下に発信できるよう取り組んで行く。</p>
		<p>2. 継続研究(2年目) ※継続研究3年目の場合は、2年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>・令和6年度の文部科学省の支援事業を実施した5校において、生徒アンケートを実施した結果、「道徳の授業は楽しいですか。」の項目では、肯定的な回答をする生徒の割合は75.1%であった。今後「楽しい」と回答する生徒が増加するよう研修会等を通じて教員の資質・授業力向上に努めて行く。</p> <p>・小中合同研修会を7中学校区で実践できた。今後も9年間を見通した道徳教育の実践に取り組む。</p> <p>・今年度は「府中道大阪市大会」を開催し129校がプレ公開授業を行った。大阪府教育、大阪市総合教育センターと連携し大阪府が取り組んでいる「道徳科の授業づくり」について府下に発信できた。</p>
		<p>3. 継続研究(3年目)</p> <p>・3年間で文部科学省の支援事業を15校で実施できた。その実施校における生徒アンケートの「道徳の授業は楽しいですか。」の項目では、肯定的な回答をする生徒の割合は3年間とも7割を超え、一定の成果は見られたと考えている。今後、更に「楽しい」と回答する生徒が増加するよう研修会等を通じて教員の授業力・資質向上に努めて行く必要がある。</p> <p>・今年度、小中合同研修会を7中学校区で行えた。今後も9年間を見通した道徳教育の実践に取り組む。</p>